



広島西ロータリークラブ会報

THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA WEST

No.
1996

例会日・木曜日 12:30~13:30
例会場・ANAクラウンプラザホテル広島
会 長 田中 健志
幹 事 金本 善行

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78
リーガロイヤルホテル広島13F
TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870
E-mail:hwrc@godorc.gr.jp
広島西ロータリー <http://www.hwrc.jp/>

RIテーマ Building Communities Bridging Continents

「地域を育み、大陸をつなぐ」

本年度会長テーマ

「ロータリーを楽しもう」

「新世代のための月間」

2010年9月2日 第1972回例会

◆ 会長時間 ◆

田中会長



今月は「新世代のための月間」です。「新世代奉仕」は今年度から従来の「クラブ奉仕・職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕」の4大奉仕に加え5大奉仕部門として制定されました。

「新世代奉仕」には「インターアクト」「ローターアクト」「ロータリー青少年交換」「RYLA」の4つがあります。「ローターアクト」に当クラブは参画していませんが、「RYLA」は地区活動として実施される年度については協力し参加しています。次の2つに対しては積極的に活動しています。「インターアクト」は1972年に鈴峯学園インターアクト・クラブを設立以来、38年間に亘り活動を続けています。『手続要覧』の83ページに「各種社会奉仕活動を秩序立てるために、インターアクト・クラブと緊密に協力すること」と書いてあります。ロータリークラブとインターアクト・クラブは、協力しあって活動することが望まれているのですが、当クラブと鈴峯インターアクト・クラブとの現状は活動部分においてそれほど緊密な関係ではないかもしれません。また「ロータリー青少年交換」については、当クラブで本事業を開始以来36年間で会員子女10人を含め合計13人派遣しています。RIは「青少年奉仕プログラムの推

進は、ロータリーの社会認知度の向上のためにも最優先事項の一つ」として掲げています。地域や世界で次の時代を担う新世代の健全な育成は、ロータリアンのみならず全人類が望んでいることです。当クラブとして、一歩前進したより深い奉仕活動を、身近な所から推進したいと思います。

● 会務報告 金本幹事

※地区大会出席回答者のBOXに交通手段に関するアンケートを配布しておりますので、ご回答をお願い致します。

※例会臨時変更

- 9月7日(火) 広島西南RC「9月9日 創立24周年記念夜間例会」
- 9月15日(水) 広島陵北RC「9月12日 創立20周年記念式典並びに祝賀会」
- 9月17日(金) 広島南RC「夜間例会並びに新入会員歓迎会」
- 9月21日(火) 広島安芸RC 休会
- 9月22日(水) 広島東RC 休会
広島陵北RC 「会員親睦夜間例会」
- 9月24日(金) 広島城南RC 休会
- 9月29日(水) 広島陵北RC 休会

※例会終了後、4階「松の間」において9月定例理事会を開催いたしますので、理事会メンバーは出席願います。

● 委員会報告

出席報告 森脇副委員長

本日(9月2日・木曜日)

会員数 85名 出席者 67名

欠席者 18名 ご来客 4名

ご来賓 0名 ゲスト 1名

計 72名

前々回(8月19日・木曜日)

出席率 100%



※ 前年度副幹事 新原会員

あゆみをBOXに入れております。お持ち帰り下さい。

※ クラブ研修リーダー 井原会員

クラブ研修リーダーからの報告

Rotary Leadership Institute (RLI) という研修会が第2710地区主導で行われました。田中会長の考えで、会長エレクト兼クラブ研修リーダーである私がクラブのお金を使って参加させて頂きましたので一部報告します。

RLIとはロータリー運動を前進させて行くために必要な指導力が世界中の各ロータリークラブで不足してきているので各クラブのリーダー候補を集めてメンバー全員がもっとモチベーションを上げるようリードしてゆく能力を養成しようという研修会です。1992年に米国のニュージャージー州の第7510地区で試行され、効果があるということで、国際ロータリーが多地区合同プログラムとして認証しました。

3回とも中味の濃い研修会でしたので3分間で全部を報告することは不可能です。今日は総論だけにして、機会を頂けるようでしたらまた何回かに分けて報告致します。

まず、それぞれの3回の研修日の3週間位前に質問が送られてきました。例えば、1)ロータリークラブにおけるリーダーシップとは何でしょうか？ 2)ひと言でいってロータリーとは何でしょうか？ あなたに誰か尋ねましたか？ 答えは何でしたか？ 3)もしロータリー財団が無かったら世界は、そしてロータリーは今どうなっていると思いますか？ などなどです。

山口と広島各ロータリークラブから参加した約80人の受講者は、6つの分科会に分かれ、それぞれの分科会で50分間の研修を受けるのですが、受講者12~13人がコの字型に座ります。そして安部さんもその一人ですが、特別な研修を既に受けた18人のリーダーが3人ずつ各分科会をリードして参加者達の考え方や創造性を引き出すのです。この様な名札の後ろには、

① 自由にディスカッションに参加して下さい。

② 注意深く聞きましょう。

③ 経験を自由に語り合しましょう。

④ 本題から離れないように注意しましょう。

⑤ 他人の発言に対して寛容に。

⑥ 自分と違った視点に対し感謝しましょう。
と書かれてあり、居眠りする暇は全くありませんでした。

ロータリーは“すべてがごちゃまぜ”、即ち多様性につきると感じました。またロータリーは倫理運動だと思いました。今日は以上です。

● 同好会報告

紫雀会 岡田世話人

紫雀会の8月月例会が8月19日庚午クラブで開催されました。

優勝は本年度から紫雀会にご参加いただいた米山さんでした。前回参加12名中最下位という残念なデビューに奮起されたのか、デビュー2戦目にして見事ぶっちぎりの優勝を飾られました。2位には前回の優勝に続いて相変わらず好調キープの小橋さん、3位には実力抜群ですが私と一緒に少々声の大きいのが玉にキズの木本さんが入りました。

今回は若干人数が少なかったのですが、次回は一人でも多くのご参加をいただきたいと思います。

● スマイルボックス SAA 小田委員

☺ 村上昇君(自主申告) 大枚

「本年、還暦を迎えました。よって息子に社長を譲り、会長になりました。2月に健康診断を受けて所見のあったところを治しました。感謝!!」とのことです。健康に留意され、また社業のますますのご発展を祈ります。

☺ 井原俊彦君(自主申告)

「全員が一応老人の医師4人から成るハワイアンバンド『トロピカル・アイランダーズ』は敬老の日を前に16日夜、当ホテルでディナーショーのまねごとをしますが、病いが高じてホームページをつくってしまいました。バンドリーダーが熱心なのです。

馬鹿なことをしているとお思いでしょうが、全くその通りだと私も思っています。そうは言っても <http://tropicalilanders.com> をちょっと覗いてみて下さい」とのことです。

☺ 大西良昭君、宇田均君

都市対抗野球の名門、三菱重工広島(広島市)は1日、東京ドームでの1回戦で東邦ガス(名古屋市)に9-2で勝ち、11年ぶりに初戦を飾りました。若手の活躍で快進撃成るか。今後の

活躍を大いに期待しております。

☺ **原 敬君**（8月3日 広島経済レポート）

やや旧聞になりますが、経済レポートの表紙に「創」という1字の色紙を寄せられています。

「73年の会社の歩みは常に創意、創造、創基の繰り返しであり、創痛に耐え、創見をぶつけあってきたが、今後も「創」を心に刻み、前進して行く」と決意を述べられています。地域に根ざす包装関連会社としてますますのご発展を祈ります。

☺ **香川基吉君**（8月12日 中国新聞）

福屋百貨店は6日から八丁堀店の紳士服フロアをリニューアルされ、若い世代を対象にしたスーツ店「エンターG」を開店されます。若年層に人気が出て、売り上げ向上を祈ります。

☺ **三島哲男君**（8月12日 中国新聞）

三島食品は7月から8月にかけて週1回、親子工場見学ツアーを実施されました。目的は食の安全、安心への取り組みや原材料へのこだわりを知ってもらいたいことと、消費者との距離を縮めることで、来年の春休みにも実施予定とのこと。社業の一層のご発展を祈ります。

☺ **藤原亨君**（8月28日 中国新聞）

鈴峯女子高校の特進コース1年生は、教室の窓の外にゴーヤの「緑のカーテン」を育て、厳しい夏の日差しから生徒を守っています。園芸の授業の一環で、室温が2～3度下がるだけでなくゴーヤの実が約150本もなり、教育とエコと実益を兼ねた一石三鳥に生徒も大歓迎とのこと。校長先生も鼻高々ですね。

☺ **紫雀会 8月例会**

栄えある優勝の米山民男君はダブルで、また2位の小橋敏幸君、3位の木本弘三君もスマイルボックスにご案内します。

■ 卓 話



ITなんか 知らなくていい!!

三 浦 信 夫 会 員

先日、園尾さんから“今期から職業分類を「コンピュータソフトウェア開発」から「ITサービス業」に変更したので卓話をしなさい。”と依頼があり、ハタと困ってしまった。

ITについては、あまりにも幅も奥行きも大きすぎて、どのように纏めればよいのか見当が付かない。しかし、お受けした以上何とかしなければな

らない。何しろ、我が社の事業がITサービス業である以上、知らない、判らないでは通らない。色々考えた結果、IT社会を単純に2つに分類し、「サービス提供者」と「サービス利用者」が在るという前提でこれからを進めさせていただきます。なお、私自身がIT音痴ですから、皆さんに内容をご理解頂ける自信はありませんのでご了承ください。

さて、これからは3つのブロックに分けて話を進めてまいります。

(1) 共通認識の話

(2) サービス提供側の今後の問題

(3) 利用者側の在り方

それでは順を追って始めます。

(1) 共通認識の話

これからお話しする内容は、まず、ITのスタートから今日に至るまでの経過を、ホップ・ステップ・ジャンプの3段跳以上でピックアップしながら話を進めます。

さて、ご存知の通り、ITとはそのまま直訳すれば「情報技術」という事になりますが、その意味することは「情報を上手に運用できるようにする技術」ということです。これらの中心になるのは言うまでもなく「コンピュータ技術」と「通信技術」になります。この2つの技術が今日の様に飛躍的な進歩を遂げるきっかけになったのは、あの忌まわしい第2次世界大戦です。昔から、戦争が技術を進歩させるとよく言われてきました。

この時点では、通信とコンピュータは別々のテクノロジー分野でした。

当時、通信は有線と無線があり、有線通信分野で資源の乏しい我が国で搬送通信技術が発明されました。搬送技術とは1本の線で2つの通信が可能な技術です。これが後世、有線通信の大発展の基となりました。

もう一つのコンピュータについてですが、もともとコンピュータ（計算）することから始まっており、戦時下の米国で、武器性能の技術計算やデータの整理、記憶のために考えられた物です。ところが当時はまだICがない時代で、最初に考えられたコンピュータは全て真空管を利用していたため、常にどこかの真空管が切れていて、終戦まで完成しなかったそうです。以来60有余年の間に時代と共にハードウェア・ソフトウェアが進化し、ますます高度なものになりました。また、市場の要求によって、同じように発達を見た通信技術と結びついてコンピュータネットワークシステムへと進歩して行きます。

コンピュータの基本の形は、本体と端末（情報の出入口）で構成されていましたが、通信と結びつ

くことによってネットワークシステムへと進んで行きます。まず、本体と多数の端末をつなぐネットワークシステムへ、また、小型コンピュータ（例えばパソコン）の開発によって、それらをたくさん繋いだパソコンネットワークへ、さらに、大型・小型のネットワークへ、そして今日は、ASP、SAAS、CLOUD等の共同利用型ネットワークシステムへと進化を続けています。

一方、制御のためのコンピュータの世界も素晴らしい進化の過程にあります。飛行機・鉄道・自動車・船舶・生産設備の自動化などの各機能は制御システムと呼ばれ、夫々の必要な機能を連結することで自動化の目的を果たしていますし、また、小さなものはテレビ・冷蔵庫・洗濯機はじめケイタイ・炊飯器・湯沸しポット…身の回りのほとんどの物に小型のマイクロチップに組み込まれたコンピュータが使われています。

(2) サービス提供側の今後の問題点

今後コンピュータ社会がどのように変化するのか予測はできません。現時点でコンピュータ社会が抱える問題点の主なものは3点あると思います。

「セキュリティ」「エネルギー」「各システムを繋ぎ合わせる技術」第1点のセキュリティ問題は日々の人間社会に大混乱を起こしかねない最重要課題です。ネットワークに外部から侵入して、内部の情報やデータを悪意を持って操作する人間の存在です。ハッカーやスパイなど考えられます。システム内のデータ破壊、軍事情報・企業情報の漏洩をいかに守るか…大問題です。

第2点のエネルギー問題。コンピュータを動かすエネルギーは唯一「電力」なのです。電力の確保がますます重要になってきます。現在の私たちの日々の生活はコンピュータ無しでは成り立ちません。物の生産・流通・販売・消費・通信・交通・住居…コンピュータが全て係っており、維持されています。もし、地球規模で電力が停止した場合には、未開地で自然と共に生活している人間以外は、全て生きて居れないでしょう。怖いことです。

第3点の各システムを繋ぎ合わせる技術の問題 この問題は特に今後益々発展進化する共同利用型システムに対する問題です。

今日のコンピュータシステムは利用者が自分に便利ように作ってしまったので、同じでは無いのです。今後共同利用型システムにするには基本部分を「共通」に変えなければならないのです。

小型のコンピュータを使った共同利用型システムではすでに始まっています。システムが小さいので意外と簡単にできたり、新しくプログラムを作っても大した費用にもなりません。問題は巨大なシステムは大問題です。もう既に問題解決に向け

てスタートしていますが、なにしろ莫大な費用が必要な上に、開発メンバーの技術習得等これからです。一方、出来るだけ簡単に移行できるテクノロジーの開発も急がれている現状です。時間がどれほど掛かるかは判りませんが、必ず解決されます。

ここまでITについて、つまみ食いの話を致しましたが、ITの意味するものは余りにも巨大で、部分的には解っていても、全てを理解している人は存在しないでしょう。また、もうだれも地球を覆ってしまったITをコントロール出来ないように思います。

(3) 利用者側の在り方

現在若者たちはIT機器を苦も無く使っていますが、昭和10年代までに誕生の人はおおくは「ITは解らん」と言われる方が多いようです。私もまさにその一人です。コンピュータも通信も解らん。

「マニュアル見てもますます解らん」。「ITは解らん」と思われている人の多くは、「IT=コンピュータ」と思っておられるのではないのでしょうか。でも、そんな事はどうでもいいのです。

貴方が会社で仕事をされる時、ほとんどの社員がITで仕事をしています。そして、社員の多くはコミュニケーション能力がどんどん低下していませんか。今や、メールを使えば話をしなくても済む社会になりつつあります。人と人の間で会話が少なくなっていますか。会議で議論が貧弱になっていませんか。

「〇〇君、##のデータと営業日報をもって来てくれ。」と指示すれば良いのです。それを見ながらあれこれ会話してあげて下さい。これからの社会は面と向き合って、人と人とを会話で結びつける事が大切で、自分でIT機器に触れなくても大した問題ではありません。

一方、毎日の生活では、自動車の運転はしていますし、新幹線や飛行機にも乗っています。商店で買い物はしますし、自宅に帰るとテレビをはじめ家の中すべてITが溢れていても、何も知らず快適に生活されています。ITを知らないからと言って何の心配もありません。「ITなんか知らなくていい！」お気軽に生活しましょう。

以上で卓話を終えたいと思います。ご清聴有難うございました。

● 卓話予告

日時	テーマ
9/16(木)	(地域・環境委員会担当) i-MiEV開発のねらいと今後のEVについて 三菱自動車工業㈱ 国内営業・サービス本部 フリートセールス部 EV販売推進 竹越 弘臣氏